

9 地域支援活動

2年													3年											
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
準備		探究テーマ探し							課題テーマ決定															
												課題研究（地域支援活動）の実施												
												リフレクションとまとめ												
												進路実現												

「地域支援活動」 3年生 生活文化科 週4時間（※1・2年生→家庭科専門科目内で実施）

2年生までは、専門科目の中ですべての生徒が家庭科の専門力を活かしたすべてのプロジェクトに携わり、多様な人と関わりながら実践から学びをえる。この学びを3年生で「地域支援活動」と位置付ける課題研究の中で活かして、自らプロジェクトをたちあげ実践を行った。内容としては、5～10月に週2時間の施設実習を行い専門教科の学びから課題解決をはかる活動とした。休校期間中には不足するマスクを製作し、実習先などに配布するなど高校で身につけたスキルを地域へアウトプットとする活動を実践に移すことができた。えびの産業文化祭でも規模を縮小して地域特産物の開発・販売の実践を行った。

①全体計画

年	月	実施項目
2		科目名 ○フードデザイン →S A Pと連携した地域特産物開発 ○ファッション造形基礎 →子育て応援プロジェクト（小物作り） ○発達と保育 →子育て応援プロジェクト(運動会企画) ○生活美学 →高齢者支援プロジェクト
	6	地域実習①～⑩ グループ協議（目標設定）→実習
	10	→振り返り（課題→解決策） ※事業所における課題から専門領域を活かした解決策の提案、実践
	9	個人レポート作成
3	12	発表プレゼン作成
	1	グローバル学習成果発表会

【連携・協力先※実績】えびの市子育て支援センター、えびのボランティアクラブ、えびの市立飯野小学校、えびの市立飯野中学校、えびの市立真幸小学校、J A えびの市青年部、J A えびの市女性部、えびの市出身プロモデル（増元美喜氏）、裏千家、えびの市 SAP 会議、えびの産業文化祭実行委員会、えびの市社会福祉協議会、飯野保育園、社会福祉法人慈愛会

②専門科目に組み込んだプログラム

家庭科の専門科目で地域を中心とした外部講師を招聘し、それぞれの科目に応じた講座を開いている。例えば、ファッション系科目ではファッションショーを企画しそのウォーキング指導をプロの専門家に依頼し行っている。今年度は大分県とオンラインでつないで実施するなどここでもハイブリッド型学習が行われている。このほか、地域の特産物を使ったメニュー開発をJ A 婦人部やS A P と協働して行ったり地域人材を専門科目にリンクさせた取り組みが日常となっている。



<p>1年</p>	<p>茶道講座 手話講座 認知症サポーター養成講座 ICT活用ファッション造形基礎 折り鶴プロジェクト はらぺこあおむし手袋製作 読み聞かせ会</p>	
<p>2年</p>	<p>kokoyade フィールドワーク 布製おもちゃづくり ビュッシュ・ド・ノエル製作 えびの市産業文化祭小物製作</p>	
<p>3年</p>	<p>保育所訪問活動 ウォーキング講座 ドレス製作 ファッションショー フラワーアレンジメント講座 福祉施設訪問活動 えびの市産業文化祭（開発商品販売）</p>	

③地域特産物開発プロジェクト

<p>えびの米の田植え、稲刈り</p>	<p>体験活動を通して、地域の特産品に関する理解を深めるとともに、「えびの市ならではの 特産品」の開発につなげる。 6月下旬／10月下旬に実施 小学生と高校生が合同で田植え、稲刈りを実施する。高校生はえびの米を活用した特産品の開発に取り組む。 場所：高校前の水田</p>
---------------------	---

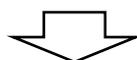
④課題研究

専門科目で取り組んだことをアウトプットし地域の課題解決に役立てようと課題研究では、半年間の実習を行っている。これは地域で展開されている事業所で生活科学の視点から課題を見つけ、解決のための実践を行うものである。今年度も様々な取り組みが行われている。

R 2 課題研究の展開について

授業内容（実習先）

- ファッション分野（ヒューマン）・・・検定対策、ヒューマンサービス関連の研究
- フード分野（フード）・・・検定対策、フード関係の研究（地域特産物の商品化プロジェクト）
- 保育分野（教育関係）・・・教材研究など実習先と関連した研究



分野	ファッション	フード	保育
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○検定対策（希望者） 受験級の指導 ○研究活動（地域支援） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> お楽しみ会企画 小学生向けミシン教室 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○個別・グループ活動 コースターづくり 美容室でのプレゼント作り 	<ul style="list-style-type: none"> ○検定対策（希望者） 受験級の指導 ○研究活動（地域支援） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> えびの産業祭り出店 グルメコンテスト出店 農産物の活用計画 お弁当作り講座 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○個別・グループ活動 ・学校菜園 ・スーパーのポップ作り ・飲食店のマスコット作り 	<ul style="list-style-type: none"> ○教材研究 (実習先の課題・準備) ○研究活動（地域支援） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 子育て支援センター イベント企画 中学校出前講座 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○個別・グループ活動 ・保育園・幼稚園向けおもちゃづくりや壁かざり ・保育園児向け便利グッズ ・図書館へ大型絵本バック
授業展開	2年次 ○課題研究の説明、先輩の紹介 ○課題意識、目的意識調査、研究テーマ模索（ワークシート1）→後日、講座の発表 3年次 ○テーマに沿った活動計画作成（ワークシート2） ○材料費などまで含めた計画書作成 ※検定受検者は作業も可 ○えびの市に出前講座の依頼（えびの市の現状、若者に期待すること）1h ○実習先でのマナーと心がけるべきこと（ワークシート3） ○事業所への挨拶、打ち合わせに向けての準備（ワークシート4） ○実践計画（課題研究Ⅰ、Ⅱとの関連性）（ワークシート5） →ワークシートは5まで。		

実習においては、コロナ禍で活動が制限される事業所もあったが、自分たちに何ができると問をもって取り組んでいた。例えば、感染リスクを考えて外出ができなくなった福祉施設の高齢者に向けたファッションショーの企画やマスク・小物製作、SAPと連携して生産した地元野菜を使った料理やお菓子の開発など家庭科の専門力をフルに生かした取り組みの実践を行った。



生産した米粉を使用して制作したパンやお菓子



SAPと連携して校内で季節野菜を生産→地域メニューの開発



酢豚



ピーマンを使ったソース

■生産野菜スイートコーン【アナグマ対策のための柵設置】



(棒の取付)



(柵取付)



(1段目の取付)



(2段目の取付)



昨年度当該授業において作付したスイートコーンについて、アナグマ被害によりほど全滅した。そのため、今回は、実がなる前に対策として柵を設置することとした。アナグマを見たことがないという生徒も多く、また鳥獣被害対策としてジビエについてもサポーターの立久井氏よりレクチャーを受けた。

■活動内容【誘引作業 (カラーピーマン)】
(誘引作業)



非常に生長が著しいため、誘引作業を実施。

■活動内容【植え替え (カラーピーマン)】



(現状)

9割の苗が水、肥料不足枯れてしまった。
残った苗の対策を実施。

各事業所での実習



ほうよう



R I Z



グループホームあおい



正一



飯野小学校

学びをアウトプット



受検している検定

- ・技術検定 被服製作(1~4級)
- ・技術検定 食物調理(1~4級)
- ・ビジネス文書実務検定(Word)
- ・情報処理検定(Excel)
- ・秘書実務検定

被服検定

☆被服→巾着袋4級・洋服・和服3・2級

☆洋服1級・浴衣1級



浴衣の着付けを覚えてもらいました!



この3年間で検定を通し様々なことが学べました!



昨年度 地域支援活動の学び

保
人との関わり

福
思いやり

食
つながり

被
実践力

食物検定

4級

3級



2級

1級



情報処理検定3~2級

ビジネス検定3~1級



2年次の活動



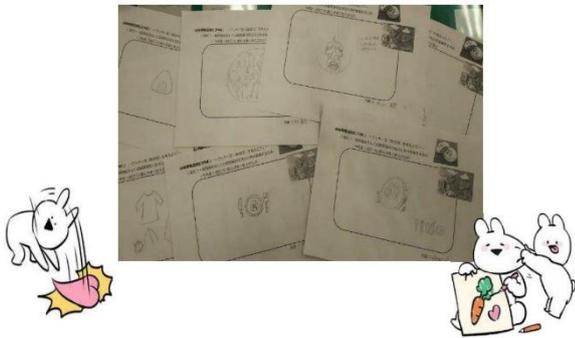
「みやざき産業人財育成事業」



秀峰高校訪問



デザイン作成



決定★



「ケーブルハウス」



贈呈式
秀峰高校 × 飯野高校





Before



After



実習内容



高校生と企業をつなぐ人財育成事業

於:JAえびの



ライスセンター
見学



ライスセンターでの
学びを発表



JA女性部
会議参加

みんなのよい食プロジェクト



米の品評会



いちごのバック詰め



道の駅
バイキング



マスクは
品切れ中です



240枚

おつかれ

保育園

生徒

専門家によるお話

マナー講座

こんにちは!

人の第一印象は6秒から25秒!

ありがとうございます!

語先後礼

元えびの市地域おこし協力隊
村上大輔さんのお話

おまご

SAPの方たちのお話

おまご

フラワーアレンジ講座

おまご



活動内容

・畑づくり



・苗植え



雨よけ作り



作業説明



誘引(ゆういん)



脇芽取り



とうもろこしの収穫



落花生の収穫



トマト



ピーマン



ピーマンアイス



とうもろこし

絹糸(きんし)



落花生

野菜を使って作った料理

とうもろこし



ポテトサラダ

コーン入り米粉パン

トマト



冷製パスタ

トマト・とうもろこし
を使った料理

よい食プロジェクト
チンジャオロース



シフォンケーキ



各種料理コンテストに参加

乳・乳製品コンテスト



卵料理コンテスト



他・シーフード料理コンテスト
・お弁当甲子園に応募

地域支援活動

事業所紹介



Aコープ



Riz

正一



活動内容・行程

Aコープ



- ・袋詰め(野菜・果物)
- ・賞味期限チェック
- ・配達のお手伝い
- ・商品並べ



ほうよう



あおい



えびの市民図書館



飯野小学校



飯野保育園



第二和光幼稚園

Riz



- ・洗濯
- ・洗い物
- ・髪を掃く
- ・お茶出し
- ・プレゼント提供
(ヘアピン・コースター・ティッシュ
ケースカバー)

正一



- ・食器拭き・皿片付け
- ・お盆洗い
- ・メニュー・テーブル拭き
- ・宴会の準備
- ・補充作業
- ・スープ配膳
- ・プレゼント作成
(ストラップ)

ほうよう



- ・レクリエーション
- ・おやつ配り
- ・体操
- ・プレゼント作成
(ティッシュケースカ
バー)

あおい



- ・検定チャレンジ
- ・雑巾作成
- ・ティッシュケースカ
バー作成
- ・ケーブルハウス作成

えびの市民図書館



- ・本の整理
- ・イベント準備
- ・看板作製
- ・プレゼント作成
(ガチャガチャ・ツムツム)

飯野小学校



- ・授業補助
- ・児童との昼休みの
触れ合い
- ・清掃
- ・プレゼント作成
(コースター・消毒
ケースカバー・ケーブ
ルハウス)

飯野保育園



- ・清掃
- ・おもちゃ修理
- ・おもちゃの消毒
- ・おやつ配膳
- ・子供たち起こし
- ・窓ふき
- ・プレゼント作成
(こま・ブーメラン)

第二和光幼稚園



- ・幼児との交流
- ・清掃
- ・読み聞かせ
- ・着替えのお手伝い
- ・プレゼント作成
(こま・ブーメラン・輪
投げ)



えびの産業まつり



田植え・稲刈り(1年)



シフォンケーキ&実りごはんの試作



米っこシフォン
ケーキ

秋の実りごはん

事前準備



実りご飯用栗の準備

米粉シフォンケーキ作り



フードデザイン選択生6人で14ホール(112個)作りました。

前日準備



人参を花の形で型抜き



実りごはんの具材を切ってる



豆だけをとる



実りごはんのベースとなるダシ

シフォンケーキ袋詰め



広報活動

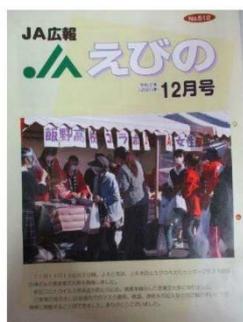


えびの産業まつり当日



シフォンケーキは午前中に完売!!
実りごはんも2時には完売しました。

えびの広報誌



マジ有名人!!

ほうようお楽しみ会



～きっかけ～

自分たちできることは無いかな？



今年は新型コロナウイルスで行事ができていないみたいだからな？



みんなが楽しめるものは無いかな？

～計画～

1. 利用者さんの思い出になるもの

→ファッションショー

2. 利用者さんに楽しんでもらえるもの

→全員で楽しめるレクリエーション

～ファッションショー～



令和2年10月23日

シルバークラブ活動報告(ほうよう)

担当 堀馬 康治 様

御野高校 生活文化科
川平純史 竹本聖也

地域支援活動(ほうよう) ④
ファッションショー&レクリエーションについて

私たち御野高校生活文化科は検定や料理、パソコンなどの勉強をしています。先月の文化祭では、新型コロナウイルスの影響で、制限された中でファッションショーを行いました。ほうようの利用者の皆様もあまり外出できず、様々な行事も行われなかったとお聞きしました。そこで、私たち生活文化科3年生のファッションショーを皆様に見て頂き、少しでも楽しく、幸せな時間となるようにこのような会を計画しました。

記

1. 目的 生活文化科で学んだことを披露し、利用者の皆様にご覧いただくことを目的とする。
2. 内容 ファッションショー(約15分) ④
レクリエーション(約20分) ④
3. 場所 ほうよう 敷地内
4. 日程 11月18日(木) or 11月20日(土)
5. その他 生徒17名参加予定
全員マスク着用・計画的実施

以上

ファッション
・被服
・ウォーキング

～ファッションショーの様子～



～ジェスチャーゲーム～



・初めての経験だったが、これからの自信につながった
・3年間の学びを発揮することができた

2020/11/20 15:00

活動成果

・コミュニケーションを高めることができた

・報告・連絡・相談の大切さを学んだ

・積極的に動くようになった

・自分の行動に責任を持って行動するようになった



10 課外活動への波及

今年度は「地域貢献」「地域探究」「地域支援」それぞれの活動が、生徒主体でカリキュラム内外の活動に広がっている。これは昨年度以上であり、コロナ禍にありながらも実践を重ねていくことで深い学びにつながっていくのではないかと考える。

11 教科と総合探究

探究的な学びを教科の学習にもつなごうと職員研修を実施している。ここでは、地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組についてとして各教科の視点で何ができるかを考え、教科ごとに取組みを実践した。

実施内容	詳細
カリキュラム・マネジメント研修会	本校の探究活動をより深化させるため、教科横断のグループで各教科の実践について協議 →各科目で実践

全学科コースで課題解決のための実践を通じた探究活動の展開により「主体的で、対話的で、深い学び」につながり、探究のサイクルを回して学びを深めることで様々な教科の思考を要することもでてきている。例えば、観光プロジェクトに取り組んだ生徒で「域内だけ考えるのは限界で、課題を俯瞰し海外の事例を学びたい」と実際に渡航しての調査活動や、オンラインで意見交換会（英語で会話）を行うなど学校・地域の枠を超えた学びを自ら創り出していた。このように活動が深まればおのずと教科的な要素も強くなる事例も出てきている。また、カリキュラム中にインプット、アウトプットの機会を活用しながら教科的な要素を入れていくことも有効である。さらに、教科学習の中でも学年・コースに応じて、どのような指導を行っていくか研修し、職員全体で探究を柱としたカリキュラム・マネジメントに取り組んでいる。以下は英語科の取組みである。

学年・クラス・コース	取組み内容	期待できる効果
1 学年 普通科 A B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はじめにスモールトーク(天気や、週末にしたことなどちょっとした会話)を実施する。 ・日本文化紹介や環境問題などのレッスンで、英語でペアまたはグループ発表を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が体験したこと、感じたこと発表することにより、主体的に表現する力を身につけることができる。 ・1つのテーマについて、意見を出し合いながら、協働して活動する姿勢を育成できる。
生活文化科 C	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書や副教材、VITAL3000(英単語集)を活用し、基礎学力の定着を養成する。 ・普段の授業の中で、小学校英語教育が実践しているまず「音声」(聞く・話す)から入り、「読み・書き」につなげる授業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ(地域貢献活動)や田植え(地域支援活動)などを通じて、主体的に自国や地域の文化、自らの経験を英語で発表する素地を作ることが期待できる。

2 学 年	普通科 A 総合 コース	<ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献活動に関するトピックを英語でも取り上げることで、活動への意欲・関心を高める。 ・Small Talk をはじめ様々なグループ活動や、主体的プレゼンテーション活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が取り組んでいる活動を英語でも話題に取り上げることで、英語への苦手意識を払拭し、英語への意欲・関心も高まる。 ・他者とのかかわりの中で、主体性、協調性、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力といった社会で自立して生きる力が養われる。
	普通科 B 探究 コース	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の内容で環境問題や地域貢献などを取り扱った単元を読んだ後で、自分たちは何ができるか考え、英語で発表する機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国内は元より、世界の事象や取り組みを知り、グローバルな視点で物事を捉えることができる。また、英語でのプレゼンやスピーチの経験を積み、自信を持って人前で発表できる態度を育成できる。
	生活 文化科 C	<ul style="list-style-type: none"> ・生活文化科特有の活動に関するトピックを英語でも取り上げることで、活動への意欲・関心を高める。 ・Small Talk をはじめ様々なグループ活動や、主体的プレゼンテーション活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が取り組んでいる活動を英語でも話題に取り上げることで、英語への苦手意識を払拭し、英語への意欲・関心も高まる。 ・他者とのかかわりの中で、主体性、協調性、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力といった社会で自立して生きる力が養われる。
3 学 年	普通科 A 総合 コース	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書や副教材、Data Base4500(英単語集)を活用し、基礎学力の定着を図るとともに、グループワークを多用することで、授業への学習意欲や興味・関心を高めることに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から音を聞いたり、声を出すことを意識させながら、英語学習に取り組ませることで、モチベーションを維持し、コミュニケーション能力を高める効果が期待できる。 ・また、英語での発表の場を持つことで、主体的に、対話的に地域貢献活動につながる教育を目指す。
	普通科 B 探究 コース	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の予習を義務付ける。 ・課の内容に沿って、スピーチやグループによるプレゼン発表をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅学習だけでなく、授業でも主体的に学ぶ姿勢を持たせることができる。 ・他者と協働する姿勢、自分の考えを持ち、それを表現する力を育成できる。
	生活 文化科 C	<ul style="list-style-type: none"> ・生活文化科特有の活動に関するトピックを英語でも取り上げることで、活動への意欲・関心を高める。 ・Small Talk をはじめ様々なグループ活動や、主体的プレゼンテーション活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が取り組んでいる活動を英語でも話題に取り上げることで、英語への苦手意識を払拭し、英語への意欲・関心も高まる。 ・他者とのかかわりの中で、主体性、協調性、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力といった社会で自立して生きる力が養われる。

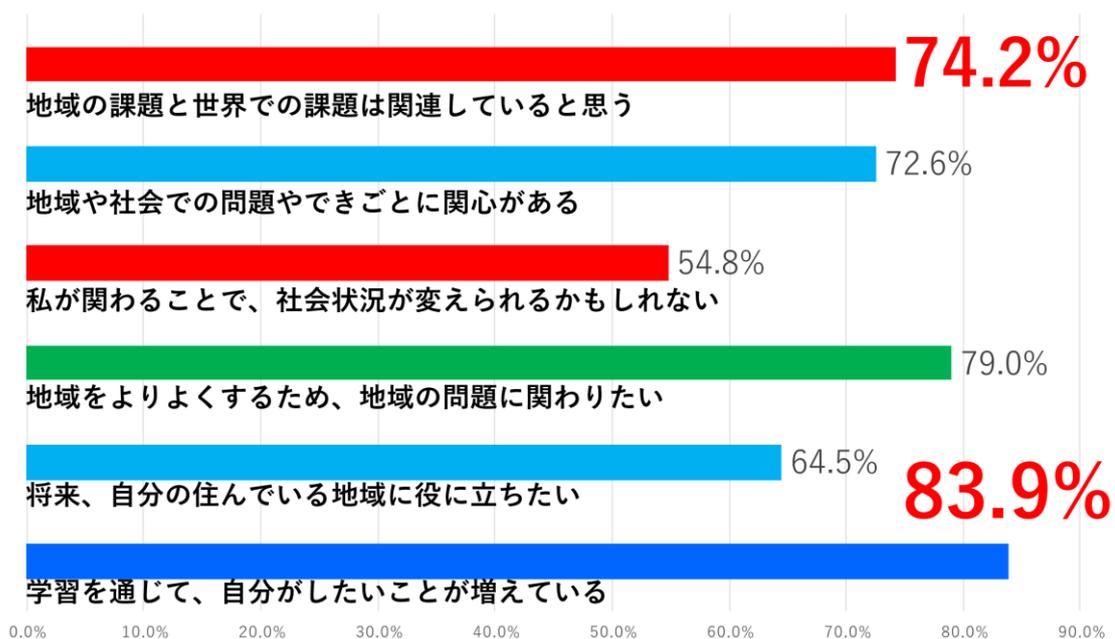
12 次年度以降の課題及び改善点

2年目を終えようとしているが、生徒たちの本事業による取り組みが高校を核とした地域創生に強いインパクトを与えていると実感している。地域とのつながる活動は、「社会に開かれた教育課程」の実現とカリキュラムマネジメントの実践にもつながっている。教科での学習活動にも探究の要素がしだいに増えてきており、次年度以降もさらに発展的に取り組んでいきたいと考えている。

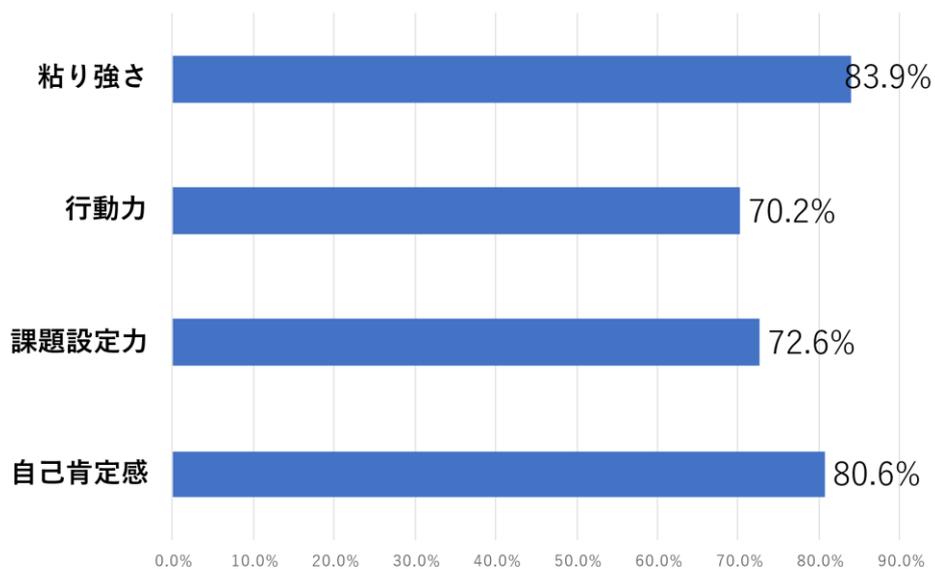
13 生徒の意識変化

以下のグラフは、今年度の3年生に開発したカリキュラムを終えた時点で行ったアンケートの結果である。例えば、地域の課題と世界の課題のリンクや地域課題に関わりたいということについては学習の成果もあり当初の目的を達成しつつある。特に、「学習を通じてやりたいことが増えてきている」と回答した生徒が83.9%と、多くの生徒たちが経験や実践をもとにそれぞれの視点で取り組めたことが分かる。また、「自分が関わることで社会を変えられるかもしれない」と答えた生徒が54.8%いたことは日本財団が同じ項目で18歳に調査している結果（18.3%）を大きく上回っており、高い意識を持った生徒たちが育成できていることが分かる。これらのことは、地域と協働した探究活動で様々な力が身についたことや縦割りの教科学習だけでは身につけることのできない力を得られたことが大きいのではないかと考える。最終年度となる次年度は、このあたりも検証していきたい。

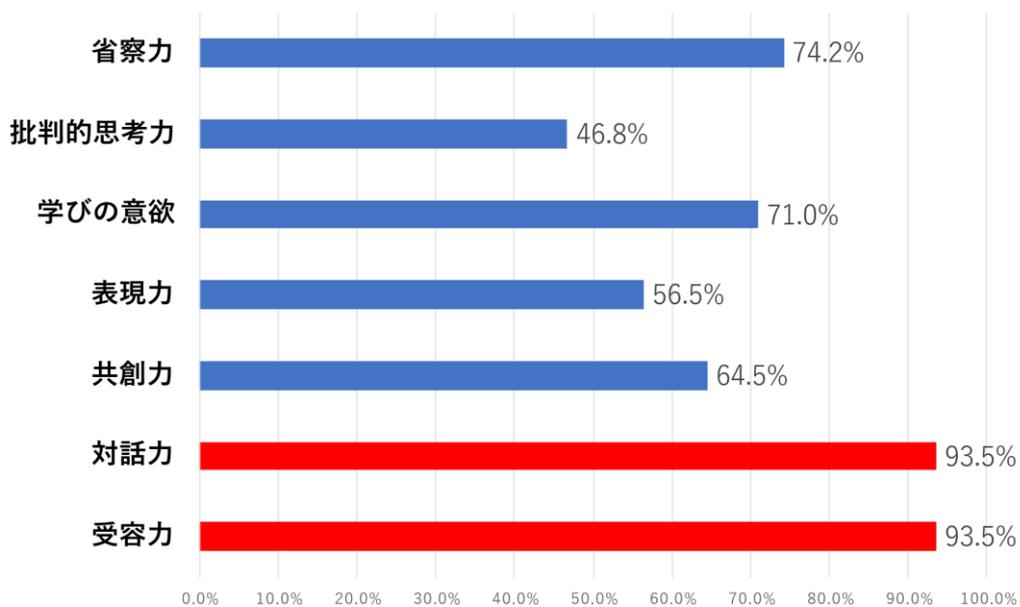
探究を経験してきた飯野高校3年生への調査



探究を経験してきた飯野高校3年生への調査



探究を経験してきた飯野高校3年生への調査



14 成果の普及方法・実績について

各研修会やメディアを通じて本校の取組みを発信している。

- ・ グローカル学習成果発表会の開催（県内外、市内中学校、地域住民 約 100 名オンライン）
- ・ 全国グローバルリーダーズ summit の実施（県内外から約 100 名参加※オンライン）
- ・ 全国高等学校教育改革研究協議会 事例紹介
- ・ 令和 2 年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業担当者会議」事例発表
- ・ M S E C（宮崎県 SDGs 教育コンソーシアム）参画
- ・ 宮崎学園高等学校 特別進学科「総合的な探究の時間」授業
- ・ 宮崎県立都城西高校職員研修 事例紹介・ワークショップ
- ・ 三重県立飯南高等学校職員研修（オンライン）
- ・ えびの未来カフェの開催（本校生＋地域住民 90 名参加 ※オンライン）
- ・ M R T（宮崎放送）みらい みらい まなび隊「地域探究活動」授業紹介
- ・ U M K（テレビ宮崎）スーパーニュース 「地域探究活動」紹介
- ・ M R T（宮崎放送）ニュース Next 「地域支援活動」紹介
- ・ N H K ニュース 「地域支援活動」紹介
- ・ 第 1 5 回マニフェスト大賞 優秀政策提言賞
- ・ 宮崎日日新聞掲載「地域貢献活動」「地域探究活動」「地域支援活動」
- ・ 視察受入（静岡県立榛原高校、島根県立津和野高校、長崎県立佐世保西高校、こゆ財団）
- ・ 静岡県マイプロジェクト教育関係者研修会
- ・ キャリアガイダンス掲載「地域探究活動」 リクルート
- ・ V I E W 2 1 掲載「地域探究活動」ベネッセ
- ・ 大学新聞掲載 大学新聞社
- ・ 月間ガバナンス掲載

7/8 えびの青年会議所フォーラム



未来について前向きに考える

飯野高校で「えびの青年会議所フォーラム」が行われました。これは、飯野高校生がえびの青年会議所の事業に参画し、生徒一人一人が自分の将来に対する不安や疑問を解消することで、明るく前向きに考えることができる契機にしてもらおうと行われたものです。

第1部では飯野高校卒業生の岡園和也さんによる講演、第2部では青年会議所のメンバーなどによるトークセッションが行われました。

令和2年9月11日付「宮崎日日新聞」



**豪雨被害支援
人吉市復興へ
15万円を寄付**
飯野高校生
7月豪雨で被災した熊本
県人吉市の災害復興に役立

てもらおうと、えびの市
・飯野高（長谷川岳洋校
長、2336人の2年生20
人は4日、募金活動で集め
た15万1005円を現地で
活動するNPO法人「カタ
リバ」に寄付した。写真
一瞬で困っている人た
ちの役に立ちたいと生徒
たちが自ら思い立ち、新型
コロナウイルスの影響で現
地での活動が困難ななか
ら、えびの市内での募金活
動を企画。8月にスパー
など5カ所で寄付を募った
り、募金箱を設置したりし
た。
同日には生徒6人が人吉
市を訪れ、教育支援活動に
取り組む同法人の関係者に
寄付金を手渡した。今更
さん（左）は「被災者が日常
を取り戻すための活動に役
立ててほしい」と話してい

7/15 飯野高校オンラインセッション



夢実現に向けて

飯野高校でオンラインセッションが行われ、約30人の生徒が参加しました。オンラインセッションとは、オンラインを通じて遠方の人と会話をするものです。今回のオンラインセッションは、乃木坂46の生田絵梨花さんが「夢を実現する力」をテーマにトークを行いました。

同校2年の新村峻太さんは、「自分から見方を変えるということ意識して、いろんな人と接していきたいです」と話していました。

令和2年「広報えびの9月号」

9/4 いいのコレクション



華やかな手作り衣装をまとって

市文化センターで生活文化科3年生による「いいのコレクション」が行われました。これは、文化祭で毎年行われているもので、同科の生徒が夏休みに制作した服を着てファッションショーを行うものです。

同科3年の永山梨夢さんは「今年は新型コロナウイルス感染症の影響で会場が変わったので、照明や演出もみんなで作りました。みんなと協力してすることができて感動しました。達成感があります」と話していました。



**認知症の啓発へ
ストラップ贈る**
えびの市に飯野高生
認知症の啓発や理解促進
活動に活用する

に役立ててもらおうと、えびの市・飯野高(長川岳洋校長、236人)のRC部は18日、市に手作りのストラップ200個を贈りました。写真。

部員2人、同部OGが制作した「認知症サポーター」のストラップを贈呈。同部は今後も啓発グッズ作りに取り組みたいという。

ストラップは、市地域包括支援センターが認知症啓発活動に活用する。

元部長で3年の浦水月さん(18)は「認知症サポーターの存在について、多くの人に知ってもらいたい。かたにはなればい」と話していた。

高校発
みやざき SDGs

目指す主な目標
11 住み続けられるまちづくり

「可能なまま」の目標を掲げ、SDGsの達成を目指す。地域規模の相違を考慮し、地域特性に応じた取り組みを求めている。

注目されているのが本校の取り組み。昨年度より文科一地域との協働による「地域教育」の推進。地域教育型「こども未来塾」の指定校として、えびの市や地域の事業者による「まち・ひと・しごと創生総合戦略」にある地方創生SDGsの実現は持

重要な地域人材育成



京町温泉みなほ会と温泉郷の雰囲気づくりに向けた提灯づくり。地域住民と共創する取り組みが広がっている

下、探究学習が展開されている。生徒は身の回りを観察しながら、地域の課題を自ら発見し、策を考へ、実践するプロセスと協働して温泉郷のシエクト型学習で学ぶ。雰囲気づくりを深めた

生徒は、海外の大学へ進出する機会も増えている。加えて自分よりインフラ、ベリオンを起す地域の人材となつたためには、自身が将来にたり地域社会に貢献できる力を養成する必要を強く感じた。

本校への市は、このように入材を輩出する取り組みを共創している。中山間地域が大部分を占める本県で高校による地域人材の育成は極めて重要だ。本校では地域の学びが生徒の将来にも結びつき始めている。「地域×高校」の生徒たちの活動が今後より注目していきたい。

(指導教諭・梅北瑞穂) 白藤日掲載

地域活性へ 自校事例紹介



全国の高校生がオンラインで意見を交わした「全国グローバルリーダーズサミット」

飯野高生が全国サミット
ローカル問題に国際的な視点で取り組むグローバルリーダーズサミットに参加した本校の生徒たち。写真。

本校生が学校の枠を超えて、地域の課題について考える。全国グローバルリーダーズサミットに参加し、今年で3回目の開催となる。本校からは、本校の生徒が「地域活性化」をテーマに、本校の課題や取り組みについて話し合った。

本校の生徒は、本校の課題や取り組みについて話し合った。本校の生徒は、本校の課題や取り組みについて話し合った。

本校が「自分たちで、えびの市や地域の課題を解決する」という目標を掲げ、SDGsの達成を目指す。地域規模の相違を考慮し、地域特性に応じた取り組みを求めている。

高校発
みやざき SDGs

目指す主な目標
3 質の高い教育をみんなに

「誰もが安心して学ぶことができる環境をつくる」という目標を掲げ、SDGsの達成を目指す。地域規模の相違を考慮し、地域特性に応じた取り組みを求めている。

注目されているのが本校の取り組み。昨年度より文科一地域との協働による「地域教育」の推進。地域教育型「こども未来塾」の指定校として、えびの市や地域の事業者による「まち・ひと・しごと創生総合戦略」にある地方創生SDGsの実現は持

地域に「学びの土壌」



子育て支援サークルNo.1ikuのイベント。自治体や地域の事業者によるサポートが生徒の主体的な学びを支えている

「誰もが安心して学ぶことができる環境をつくる」という目標を掲げ、SDGsの達成を目指す。地域規模の相違を考慮し、地域特性に応じた取り組みを求めている。

注目されているのが本校の取り組み。昨年度より文科一地域との協働による「地域教育」の推進。地域教育型「こども未来塾」の指定校として、えびの市や地域の事業者による「まち・ひと・しごと創生総合戦略」にある地方創生SDGsの実現は持

県予算の現場から 2021年度

- 5 -

JR吉都線を使って小求活動の中で踏切性
林市の自宅から通学する
化に取り組む。周住良
の市・飯野2年の
にも関心を持ってもらう
新村太さん(17)は授業
のため、乗車イベントや駅
の環境で路線活性化に取
をイメージして
り組む。同路線は3年前
る企画立案。今月24日
には鹿児島県水戸市・吉
減便されたほか、年間3
松駅から飯野駅の間で
普通以上の乗客を計上し、
常存続の議論が続きま
と。新村さんは次世代
に存続させるためには自
分たちが知恵を絞る必要
があると感じている。「地
域と
、自分たちとして吉都
線に向き合っている。活
動は相乗効果をもたら
新入生ら生徒9人らして
は、同様の科目「地域探
「吉都線に観光列車を呼

地域教育



JR吉都線活性化のため高校生目線でイベント
企画などに取り組む飯野高校生たち(24日午後、
JR都城駅)(木上友貴撮影)

ICT化「格差」解消

ICT化「格差」解消

飯野小林実行委員会の野高生の活動はわれわれ
百寿昭会食(42)は飯野以上の地元への波及効果
が大きい。生徒の思いや
体験を世代や他の学校
にどう伝えいくかが私
たちの課題になってい
ると課題を挙げてい
一斉、少子化や私高
(情報通信技術)を活用し
授業料の実質無償化など
を背景に県立高の入学者
数は減少の一途を辿る。地域間にある「学びの格
差」の解消も目指す。こ
状況は、前年度比48.1
人減の4,332人とな
7.8万円を計上した。
志願率が1倍を切った。生徒たちが学ぶ地域課
題を教科や単位として
部部での傾向は顕著
かた扱つかという課題が
ある。進学校などではカ
リキュラムに入れる難し
さもある。飯野高の南北
指導教諭は「特色や
魅力を磨くため、学校の
工夫や力をもめられる」
と指摘した。(松崎千穂
＝わり＝